

日 時	平成30年10月26日（金） 13:00～17:00
場 所	岐阜県健康科学センター 研修室 他
コーディネーター	NPO法人ぎふNPOセンター理事長 野村 典博 氏
受講者	15名
主催者	岐阜県環境生活部県民生活課 瑞穂市企画部市民協働安全課
内 容	<p>◎NPO法人つむぎの森の活動を視察し、活動内容のお話を伺いました。</p> <p><u>視察案内・活動紹介者：NPO法人つむぎの森代表理事 豊永 利香 氏</u></p> <p>1 視察：ふれあい農園「つむぎ野」</p> <p>広大な畑には、様々な種類の野菜等が栽培されている。また休憩スペースとしてテントも設置され、自分たちのペースで作業できるだけでなく、集えるような空間となっている。</p>  <p style="text-align: center;"><豊永氏説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培した野菜等はスーパーで販売したり、自分たちで調理したりして楽しんでおり、先日も石窯を利用し、ピザを焼いて楽しんだ。 ・農園への関わり方は様々で、自分たちのできること・できる範囲のことを行っている。 ・雑談の中から地元の方が草取りに参加されることになり、現在も「草取り隊」と称し協力してくれている。 ・ゆくゆくは「農園カフェ」をオープンしたい。  <p>2 活動紹介・質疑応答</p> <p style="text-align: center;"><団体の概要></p> <p>中学で不登校になった子どもの卒業後の居場所をつくるため、フリースクールを開設。その後NPO法人化し、現在は3事業を実施している。合言葉は「ひとりぼっちをつくらない」。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まーまはうす事業：親と子の学びの場。分かち合い寄り添う中で、信頼関係を取り戻す場所。 ・まーゆ事業：働く居場所。働くための体験を通して、社会に参加する準備をする場所。 ・ゆいまーる事業：畑での作業や地域の人たちとの関わりを通して、社会的に自立していく場所。  <p style="text-align: right;">▲活動紹介者の豊永氏</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;"><講演内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談にのる時は、「よりそい^{ひと}人」になる。答えを出してあげるのではなく、自分で答えを見つけられるようにサポートする。 ・安心して安全な居場所をつくる。みんな同じではないことを理解・尊重し、誰もが安心して話せる場所とする。 ・楽しくてもっとしたい、もっといたいと思える場が必要。さらには出番があることで、社会に必要とされているという思いが生まれる。 ・自分ができることをやるのが仕事になり、さらには他の人たちの仕事生まれるきっかけにもなる。できないことは素直にできないと言いながらやればよい。 ・居場所をつかったことで、たくさんの人たちが混じり合うようになった。居場所には自分の出番があり、それが地域へ広がると「生きごち」のよい暮らしになる。 ・行政の制度では当てはまらない人たちがいる。そういう人たちを地域の人たちみんなと手をつなぎ、包み込めば、支えていける。地域の人の力が必要。 </div>

◎グループワーク

NPO 法人つむぎの森は「居場所」がキーワードです。
そこで「こんな居場所があったらいいな」をテーマに、自分の現状を確認することからスタートし、どんな居場所があるとよいか、どんなことができるか等を話し合いました。



▲コーディネーターの野村先生

3 視察：地域活動支援センター「まいむ」

福祉サービスの居場所として、障害者手帳がなくても利用できる施設。平成30年4月に開設。自分のペースで好きなことをして活動できる自由な場所となっている。



<豊永氏説明>

- 視察当日は、さるぼぼづくり、アクリルだわしづくりを実施。その他にも、イラスト制作やパソコン、ミシンなど自分たちのやりたいことを行っている。
- 活動は、みんなと向き合いながら行ったり、一人で壁を向きながら行ったりと利用者が自由に選べる。
- 支援者、被支援者の区別をなくすため、スタッフはあえて名札を着用していない。